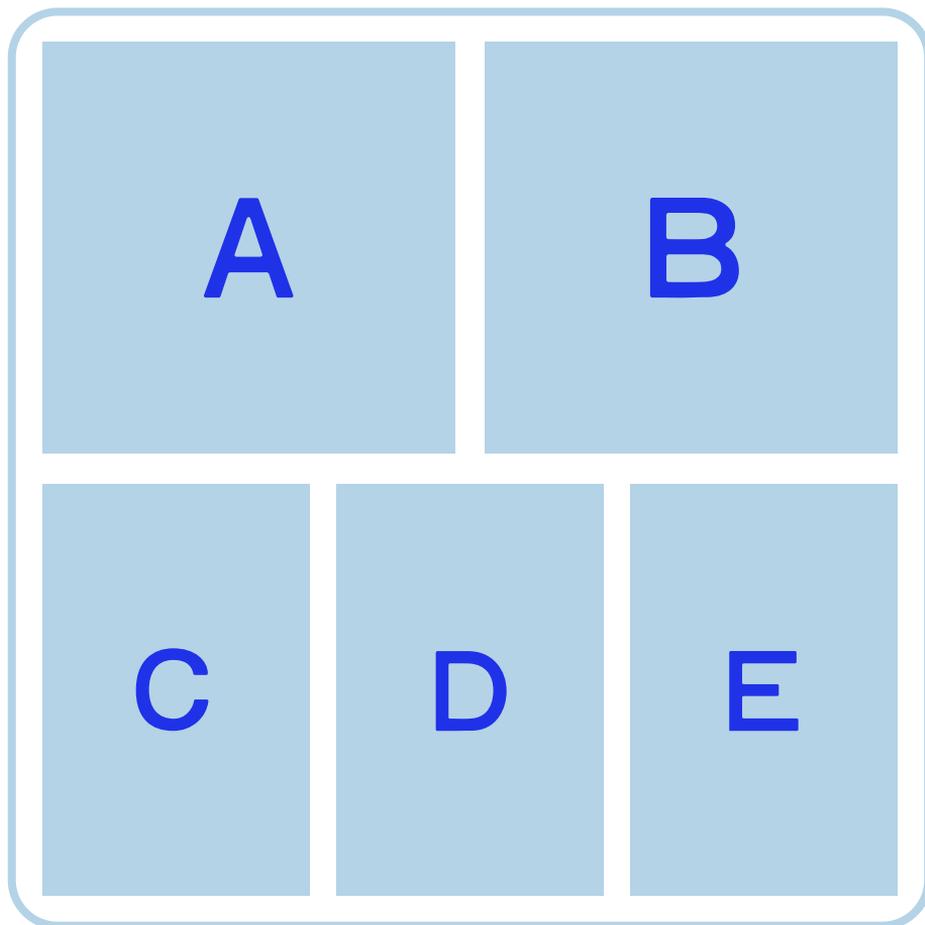


MAP



目次

[1.概要.....p.02](#)

[2.導入.....p.03](#)

[3.探索.....p.04](#)

[4.最終.....p.10](#)

[5.結末.....p.11](#)

Sample

1.概要

シナリオタイトル	: Sample
シナリオ系統	: null
使用ルール	: null
プレイ人数	: null
所要時間	: null
舞台	: null
推奨技能	: null

どのページからも
一番使用頻度の高い
MAP・目次に戻れる



テキストの見方

地の文章

普通の文章です

KPのセリフ

斜体で書かれている文章については、KPはそのまま読み上げてください。

→

補足事項です。必要があれば、PLに伝え情報が含まれています。

【KPメモ】

筆者からのKPに対するアドバイスです。完全に従う必要はありません。

橙色 : 判定

(赤色) : 条件分岐、成功度

青色下線 : リンク

2.導入

半年のうちに世相は変わった。醜の御楯といでたつ我は。大君のへにこそ死なめかへりみはせじ。
若者達は花と散ったが、同じ彼等が生き残って闇屋となる。ももとせの命ねがはじいつの日か御楯とゆかん君とちぎりて。

けなげな心情で男を送った女達も半年の月日のうちに夫君の位牌にぬかずくことも事務的になるばかりであろうし、やがて新たな面影を胸に宿すのも遠い日のことではない。人間が変わったのではない。人間は元来そういうものであり、変わったのは世相の上皮だけのことだ。

昔、四十七士の助命を排して処刑を断行した理由の一つは、彼等が生きながらえて生き恥をさらし折角の名を汚す者が現れてはいけないという老婆心であったそう。

現代の法律にこんな人情は存在しない。けれども人の心情には多分にこの傾向が残っており、美しいものを美しいままで終らせたいということは一般的な心情の一つのようだ。

十数年前だかに童貞処女のまま愛の一生を終らせようと大磯のどこかで心中した学生と娘があったが世人の同情は大きかったし、私自身も、数年前に私と極めて親しかった姪の一人が二十一の年に自殺したとき、美しいうちに死んでくれて良かったような気がした。

一見清楚な娘であったが、壊れそうな危なさがあり真逆様に地獄へ墮ちる不安を感じさせるところがあって、その一生を正視するに堪えないような気がしていたからであった。

【KP×E】

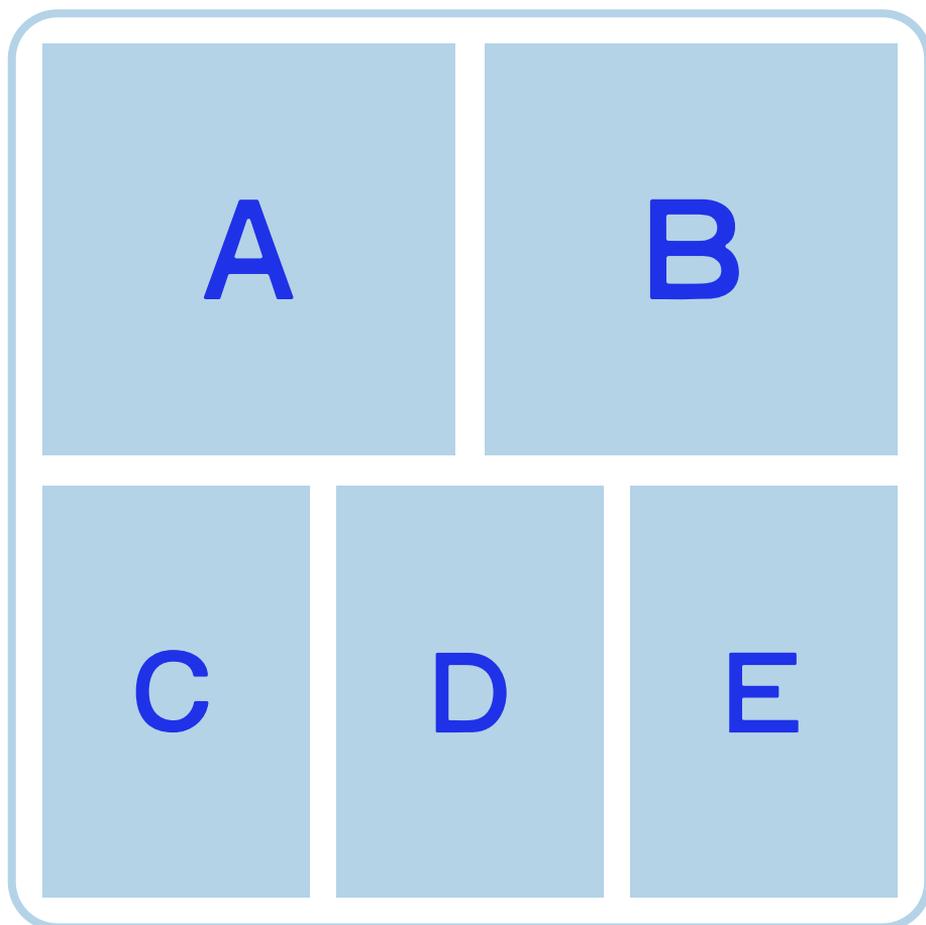
人間は愚かなので、3～5行以上の文章を認識できないとされている。

その為、最近のweb上の文章はその程度で空間を設け、認識しやすくしているのである。

スクロールして
自分で探すことなく
進行できるようにする

3. 探索 MAP

何度同じMAPを出しても
ページの圧迫を気にしないで
よいのはメリット



《ルール説明》

- ・この戦争中、文士は未亡人の恋愛を書くことを禁じられていた。
戦争未亡人を挑発堕落させてはいけないという軍人政治家の魂胆で彼女達に使徒の余生を送らせようと欲していたのであろう。
軍人達の悪徳に対する理解力は敏感であって、彼等は女心の変り易さを知らなかったわけではなく、知りすぎていたので、こういう禁止項目を案出に及んだままであった。

セッション中
スクロールでページを跨がせることは
極力避ける

A



パターン化したイベントの有無が
一目でわかる

いったいが日本の武人は古来婦女子の心情を知らないと言われているが、之は皮相の見解で、彼等の案出した武士道という武骨千万な法則は人間の弱点に対する防壁がその最大の意味であった。
→武士道というものがそもそもの日本人の気質ではないということ。

【KPメモ】

複数の色で記載すると文章ブロックの違いが空間を多くとらずとも理解できるのがよい。
モノクロの場合はフォントや下線などで表現するが、パターンに限界があるし、違いが軽微。

《通常イベント》

武士は仇討のために草の根を分け乞食となっても足跡を追いまくらねばならないというのであるが、真に復讐の情熱をもって仇敵の足跡を追いつめた忠臣孝子があったであろうか？

彼等の知っていたのは仇討の法則と法則に規定された名誉だけで、元来日本人は最も憎悪心の少い又永続しない国民であり、昨日の敵は今日の友という楽天性が実際の偽らぬ心情であろう。

昨日の敵と妥協否肝胆相照す

日常茶飯事であり、仇敵なるが故に一そう肝胆相照らし、忽たちまち二君に仕えたがるし、昨日の敵にも仕えたがる。

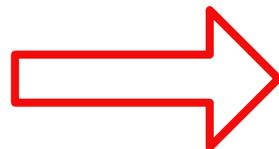
生きて捕虜の恥を受けるべからず

判定：**交渉系技能など** (成功)
こういう規定がないと日本人を戦闘にかりたてるのは不可能なので、我々は規約に従順であるが、我々の偽らぬ心情は規約と逆なものである。

【KPメモ】

能動的な行動をブロック分けして記載する。

終わったら一旦MAPに戻る、の精神



基本はこのページサイズ
モニタ半分を占有するイメージ

B



項目が増えると効果が大きい

日本戦史は武士道の戦史よりも権謀術数の戦史であり、歴史の証明にまつよりも自我の本心を見つめることによって歴史のカラクリを知り得るであろう。

今日の軍人政治家が未亡人の恋愛に就いて執筆を禁じた如く、古の武人は武士道によって自らの又部下達の弱点を抑える必要があった。

【KP×E】

今、勝手に文章の改行を変えて書いているが、現代は本当に改行が増えている気がする。紙が貴重ではなくなったからだろう。

《通常イベント》

小林秀雄は政治家のタイプを、独創をもたずただ管理し支配する人種と称しているが、必ずしもそうではないようだ。

決められたページの枠組みから解放され
同一事項に関して、すべてを同じページに記載できる

《特殊イベント》

政治家の大多数は常にそうであるけれども、少数の天才は管理や支配の方法に独創をもち、それが凡庸ぼんような政治家の規範となって個々の時代、個々の政治を貫く一つの歴史の形で巨大な生き者の意志を示している。

《進行イベント》

縦に長くなると
自分が今、どこのページを見てるかが
わからなくなる
ページタイトルはどこにスクロールしても
わかるようにしておくべき

C

《通常イベント》

《進行イベント》

4.最終へ

D

《通常イベント》

《特殊イベント》

《進行イベント》

E

《通常イベント》

《特殊イベント》

4. 最終

政治の場合に於て、歴史は個をつなぎ合せたものでなく、個を没入せしめた別個の巨大な生物となって誕生し、歴史の姿に於て政治も亦また巨大な独創を行っているのである。

この戦争をやった者は誰であるか、東条であり軍部であるか。そうでもあるが、然し又、日本を貫く巨大な生物、歴史のぬきさしならぬ意志であったに相違ない。

日本人は歴史の前ではただ運命に従順な子供であったにすぎない。政治家によし独創はなくとも、政治は歴史の姿に於て独創をもち、意慾をもち、やむべからざる歩調をもって大海の波の如くに歩いて行く。

何人が武士道を案出したか。之も亦歴史の独創、又は嗅覚であったであろう。

歴史は常に人間を嗅ぎだしている。そして武士道は人性や本能に対する禁止条項である為に非人間的反人間的なものであるが、その人性や本能に対する洞察の結果である点に於ては全く人間的なものである。

対応について

《時間切れ》

5.結末へ

5. 結末

END①

TRUE END

END②

GOOD END

END③

NORMAL END

Sample

本PDFの形式は自由に模倣してもよいものとする。

引用

作中文章：坂口安吾「墮落論」

作成

2024年4月21日 なびるな